

日韓AIビジネスダイアログ2025 実施報告

【日程】 2025年9月3日（水）～9月5日（金）

【メイン会場】 ノボテル・アンバサダー・ソウル・江南ホテル（ソウル）



JISAのカウンターパートである韓国情報産業連合会（FKII）とは、長年にわたり日韓両国の情報サービス産業分野において交流を深めてきた。今回の日韓イベントでは以前の運営方法を一部見直し、人数を絞って質疑応答やディスカッションの機会を増やすなど、より深い意見交換を重視する形とした。こうした双方向のコミュニケーションを大切にする意味を込め「日韓AIビジネスダイアログ2025」という新たな名称で実施した。JISA国際委員会では富安寛 国際委員長（株式会社NTTデータ）を団長とする9名の視察団を派遣し、メインフォーラムでは生成AIなど先端事例を共有しながら実践的な交流・意見交換を行った。

9月4日（木）にノボテル・アンバサダー・ソウル・江南ホテル（ソウル）で行われたメインフォーラムでは、両国の産業政策やAI活用に関する最新動向を共有するとともに、質疑応答セッションでは今後の日韓協力についての闊達な意見交換が行われた。

開会セッション

開会挨拶：韓国情報産業連合会（FKII）会長 鄭 鎮燮（ジョン・ジンソプ）

答礼挨拶：一般社団法人情報サービス産業協会（JISA）副会長・国際委員長 富安 寛

基調講演

「日本のソフトウェア産業の現状と将来の課題」 JISA国際副委員長 川本 淳也

「製造業におけるAI導入：レガシーからAI Readyへ」 SK AX副社長 チャ・ジウォン（Jiwon Cha）

事例発表

「AIがAIと協調する SmartAgent がもたらすビジネス変革」 株式会社NTTデータ GenAIビジネス推進部長 奥田 良治

「Data First, AI Smart：分析を行動可能なインテリジェンスへ」 BI MATRIX キュファ・ジョン（Kyuhwa Jeon）

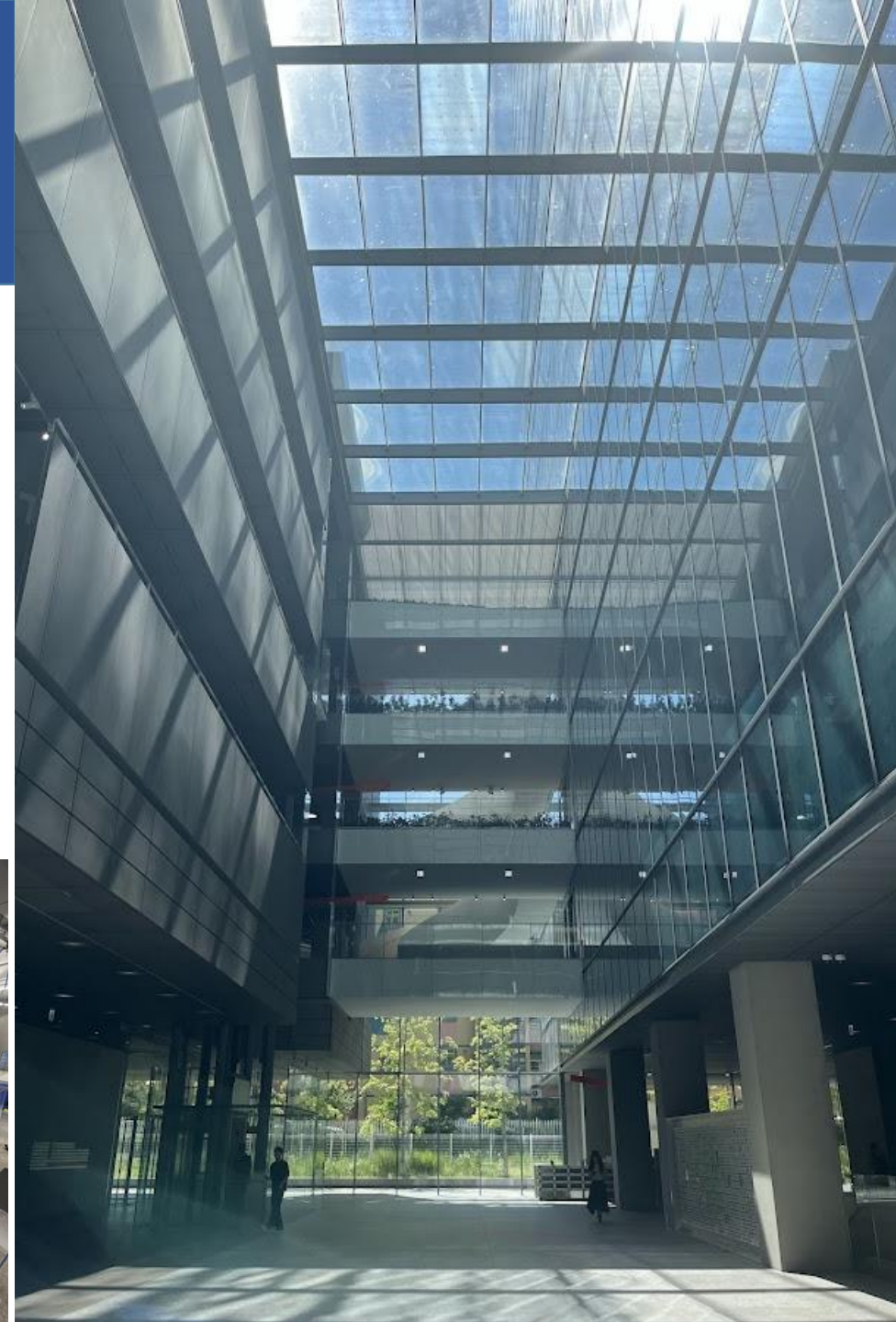
NAVER1784 視察の様子

2025年9月5日、韓国最大のIT企業NAVERの第2本社ビル「NAVER1784」を視察した。NAVER1784は2022年に竣工した37階建ての「未来型テストベッドオフィス」であり、同社が掲げる「End to Endのエコシステム」の象徴的施設である。

NAVER社が持つ大規模クラウド基盤やHyperCLOVA Xなど生成AI技術を活用し、社内業務から対外サービスまで高度に統合・実証する拠点として位置付けられている。

AIベースビル制御システム「EYE」により室内の温度・照明・混雑状況などをリアルタイム学習して最適化する仕組みが整えられていた。

社屋内では配送ロボット「Rookie（ルーキー）」100台以上が書類やコーヒーなどを自動配送しており、社内に配置されたスターバックスコーヒーからは途切れることなくロボットがビル内各所への配送を行っていた。



DOUZONE Bizon (Eulji Tower) 視察の様子

2025年9月5日、韓国の代表的なIT企業であるDOUZONE Bizon（ダゾン・ビズオン）の「Eulji Tower（乙支路タワー）」を視察した。同社は、クラウドベースのERP、会計、人事システムなどを企業や自治体向けに提供しており、公共分野のデジタル化にも貢献している。

社屋内には、スポーツジムや酸素カプセルなど、社員のエンゲージメントを高めるための多様な福利厚生設備が整備されていた。

現地説明では自社データセンターの保有と、韓国企業の約89%が同社の年末調整システムを利用しているという圧倒的なシェアが強調された。AIが送信メールをリアルタイムで監視し、社内規定に反する内容や不審なメールを検知して送信をブロックしたうえで上司に報告するシステムも導入されていた。こうした仕組みにより、高度なセキュリティ対策が講じられていることがうかがえた。

